

2014 年度事業経過報告

◎総括報告

公益法人として3年目を迎えた本会は、『国民に信頼され尊敬される組織の実現』を目指し、公益事業を中心に据え、各種事業を推進してきた。

1986年にスタートした生涯研修事業は、今年度も厚生労働省の後援を得て、地域組織学術実務担当者の協力をいただき、数多くの参加者を得て医療関係従事者としての職責に貢献した。また、厚生労働省委託事業である感染症予防歯科技工士講習会も、昨年度から2巡目となり改訂テキストによって一層スタンダードプリコーションの概念を確立させる役割を果たし、国民の口腔保健に寄与した。

中長期総合計画“日技新発展『7』プラン”は、確実に実行するため、『7』プラン推進委員会を設置し、工程表のもと年度事業との整合性を図りながら順次実施している。中でも、外部有識者も参加した総合政策審議会には、「歯科技工士の資質向上」、「歯科技工士の環境整備」を主題として諮問し、今後歯科技工士に求められる方向性について鋭意検討を進めている。

本会も参画して厚生労働省内に設置された「歯科専門職の資質向上検討会」の答申等を経て、歯科技工士国家試験の全国統一化を図る歯科技工士法の一部改正が実現した。また、歯科技工士国家公務員の待遇に関わる医療職俸給表(二)初任給基準表等人事院規則の一部改正が行われ、実情に即した環境整備が一步前進した。

衛生行政報告例等の歯科技工所数が実際の歯科技工所開設数との乖離が大きい現実を踏まえ、適正な衛生行政運営を確保するため、歯科技工所の運営実態の調査と歯科技工所の業務管理体制を整備推進させるための「歯科技工所の開設届け出等整備推進事業」を継続実施した。また、歯科技工士法第21条及び第26条に基づく届け出や広告の制限の規程違反等についても地域組織と連携し鋭意対応した。

国際交流事業では、本年10月福岡市で開催される第18回アジア・太平洋地域歯科技工士連盟協議会のホスト国としての準備作業を行った。また、開発途上国の女性や子供たちへの支援活動に寄与するために、トゥースフェアリー事業、ジョイセフ活動への支援活動を地域組織と会員の協力の下に行った。

歯科技工に関する普及啓発事業は、これまでの経験を踏まえてより市民へのアピールを広めるため、株式会社テレビ朝日映像に企画立案等の一部を委託し、『2014年入れ歯感謝デー市民公開講座』を六本木ヒルズ内テレビ朝日イベントスペースUMU(東京都港区)において、“歯ッピー入れ歯デー2014”と銘打ち、「知る!学ぶ!作る!入れ歯でハッピー!!」をテーマに行った。さらに、BS朝日のスポット放映も行い事業の情宣に努め、600人を超える参加があった。

大規模災害発生時の多種多様な状況に適切に対応できる災害医療に関する知識と技術を修得し、医療関係従事者として斯界の発展に寄与するため、国際医療技術財団のJIMTF災害医療研修準備委員会に参加し、JIMTF災害医療コースに参画した。また、首都直下地震等大規模災害において帰宅困難者対策を推進するための東京都帰宅困難者対策条例を

遵守し、水・食料等の必要な物資を備蓄した。一方、歯科技工士会館の耐震性は問題なかったが、現在、不要な高架水槽の撤去等を計画的に進めている。さらに、災害時の事業継続のための事務局機能維持等の検討を行った。

来る『歯科技工士法制定および日本歯科技工士会創立 60 周年地域交流記念大会』に向けて準備委員会を設置し、節目の事業に相応しい事業を目指し様々な対応を検討した。

これらのナショナルセンターの事業について、地域組織との情報共有を図る目的で全国実務代表者会議を開催し意見交換を行った。

以上、2014 年度の総括報告とする。